

# 町医者だより

平成30年06月号

米国で使われている喘息吸入薬

<発行・お問合せ先>

おおわだ内科呼吸器内科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

2分ミスタードーナツ並び

ヘアサロンAsh向かいビル2階

電話 047-379-6661

おおわだ  
内科  
呼吸器内科

当院に通院されている製薬業界の患者さんが面白い記事を教えてくださいました。米国で使われている吸入ステロイド/長時間作用気管支拡張剤の合剤 (ICS/LABA)に関する今年の4月の記事です。製剤の名前が異なることなど知ってみると面白いです。

## 処方されている製品

売り上げ額で見ると1位が製薬会社GSKのアドエア (米国ではAdvair) 49%、2位はアストラゼネカ (日本ではアステラスも販売提携) のシムビコート (米国でも同じ名前) 26%、3位 GSKのレルベア (米国ではBreo) 19%、4位 製薬会社MSDのDuleraという吸入です。これはモメタゾンという吸入ステロイドとシムビコートに入っているフォルモテロールという長時間作用気管支拡張剤の合剤ですが日本では発売されていません。だいぶ前にアズマネックスというモメタゾンだけの吸入ステロイド単剤が日本でも発売されたのですが、時代が合剤にシフトしていたためかほとんど売れなかったと思います。モメタゾンはヨーロッパでは点鼻ステロイドとして良く使われていたと思います。それとアドエアのジェネリックがテバから発売されてAirDuoというらしいのですが、ややこしい話なのですがそのAirDuoのオーソライズドジェネリックが出ているようでこれらのジェネリック群が1%未満です。分析によると、このジェネリック群が売り上げ額こそ少ないが、非常に大きなディスカウントをしているせいか売り上げを伸ばしているようです。調べると米国の吸入薬の薬価は日本より高いかも知れません。レルベアの売り上げも増えています。1日1回吸入が簡便で米国でも受け入れられています (この患者さんの心理は日本と同じ)。GSKがレルベアの販売に力を入れているためアドエアの売り上げは下がってきているようです。それとは対照的にシムビコートの売り上げが増えています。一つは薬の効き目が早いことのようにです。この記事には日本語訳がついているのですが、日本のシムビコートのような粉を吸う吸入法 (ドライパウダー吸入DPI)が受け入れられてきたような記述ですが間違いです。実は米国ではスプレータイプ (pMDIと言います) のシムビコートしか販売されていません。米国ではアドエアのディスクスが4歳から (日本では年齢制限なし)、シムビコート (エアゾール) が6歳から使用できます。今年の6月24日にフルティフォームを販売している杏林製薬が主催した外国施設の講師を招いた少人数の講義に参加させて頂きました。講師は英国のNHLIの呼吸器内科医のUsmani先生。数年前に論文を読んでいて名前は知っていました。次世代のヨーロッパの呼吸器を引っ張っていく方の一人です。実際どんな治療を自分の病院でしているか質問したらシムビコートは日本と同じ粉を吸引するDPIらしいのですが、喘息が悪化したとき英国では吸入量を増やすスマート療法はほとんどおこなわない (5~6%) と言っていました。今回紹介した米国の吸入薬の記事に米国でもスマート療法は認められていないと記載されていました (FDAのサイトで私も確認しました)。私は以前からスマート療法には疑問を持っていたので私の判断もまんざらでもない嬉しくなりました。今回のUsmani先生の講義でフルティフォームは従来とは異なる次世代のスプレータイプであることが (今頃) 分かりました。またスプレータイプの方が急性増悪も少ないようです。杏林製薬はもっとそこを強調すべきです。これから出てくるトリプル療法 (吸入ステロイド+2種類の気管支拡張剤) の中にもスプレータイプものがあるって吸入効率がさらに上がっているそうです。スプレータイプの喘息吸入薬も注目です。